

野間直彦研究室

作成日：2016年5月31日

●研究課題と内容：

鳥類・哺乳類・人間活動と植物・植生の関係を研究し、将来のあり方を考えています。

果実と鳥類・哺乳類の関係

結実のフェノロジーや栄養価などの果実の特性が、果実食鳥類（ヒヨドリ・メジロ・ツグミ類・ハト類など）の渡り・移動や利用様式とどのように関係しているか、果実食鳥類や哺乳類がどのように種子を散布しているか、自然林の結実数の年変動が鳥類・哺乳類の移動や農作物の食害・ツキノワグマの里への出没にどのように影響しているか、などの調査を、滋賀県、立山（ライチョウなど）、九州、屋久島、奄美大島、沖縄島、タイ国カオヤイ（サイチョウ類など）の森林で行ってきました。

鳥獣害と植生

滋賀県に生息するイノシシ・ニホンザル・ニホンジカ・カワウと植生との関係について以下のような調査を行ってきました：・イノシシやニホンザルの環境利用と植生の関係・農作物被害の特性・糞や食べあと・掘り起こしなどの生活痕跡からみた食性の季節変化・農地と山の境にある林を伐採した時の農作物被害を減らす効果・竹生島におけるカワウの営巣と植生の関係・ニホンジカによる山地（伊吹山・御池岳）植生への影響と、柵の設置などの対策による食害防止効果。

里山植生の現状と未来

高度経済成長期まで生活に利用され伐採・草刈などで管理されていた里山の植生は、利用がやみ遷移が進んで大きく変化しましたが、生物多様性の減少・鳥獣害の増加・環境や景観の変化などの問題が起きています。伊吹山、彦根市荒神山、犬上川河辺林、高島市椋川、京都大文字山、山口県上関などで現状と過去の管理を調査し、望ましい将来像を考えています。長浜市余呉の山間部では、焼畑地の植生を調査し焼畑の復活と関係させた新しい里山利用を模索しています。関連した問題として、源流域に残されたトチノキ巨木林の保全に取り組んでいます。

侵略的外来植物の対策

琵琶湖周辺に定着し特定外来生物に指定された抽水植物のオオバナミズキンバイについて、駆除に役立てるために生物学的な特性を研究しています。オオバナミズキンバイの種子はガンカモ類によって散布（周食型：果実を食べて種子を糞とともに排出、付着型：羽毛や脚に種子が付着、のどちらか）されて分布を拡大している可能性があり、今後調査を進めます。ほかにナガエツルノゲイトウ、ミズヒマワリ、オオカワヂシャなどの特定外来生物も滋賀県の水辺に定着しており、それらの情報共有・対策の仕組み作り・駆除などの活動を行っています。

●研究分野： 生態学、環境科学

●キーワード： 果実、種子散布、植生、鳥獣害、里山、植生管理、外来種駆除、自然保護

●受け入れ： 学部生 ： 可能です。

修士課程：基本的に可能です。ご相談下さい。

博士課程：テーマによって可能です。ご相談下さい。

●連絡先： e-mail： noma(あつとマーク)ses.usp.ac.jp

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学環境科学部

野間直彦